

# 豚熱確認1年 豚を供養

豚熱(CSF)への感染が豊田市の民間養豚場「トヨタファーム」で国により確認されてから一年を迎えた六日、社長の鋤柄雄一さん(五〇)や従業員ら計九人が、豚舎の横に埋却処分された豚の供養を営んだ。

埋却地近くに設けた祭壇に花を手向けた。近くの寺から僧侶を招き、鋤柄さんらは静かに手を合わせた。

県内の飼育施設としては三十九年ぶりに昨年二月六日に感染が確認されてから、九日にかけて五千六百二十頭の豚が殺処分され、豚舎に隣接する養豚場所有の土地に全て埋められた。供養に至った思いについて、

## トヨタファーム「終息していない」

鋤柄さんは「豚は理不尽な殺され方をした。家畜として食肉になるのと同じじゃないかと言つ人もいるが、ただ殺されて埋められるのは意味が違つ」と説明した。

昨年七月に営業を再開し再建途上にある。一年という区切りの日に鋤柄さんは「豚に対して申し訳ないという気持ちやもつ一回再建するぞという思いなど、いろいろある」と話す。殺処分の光景が目には焼き付いているといい、「二度と繰り返してはいけない。また豚熱は終息していない。同じ目に遭つ養豚農家が一人でも減ってほしい」と願った。(森本尚平)



1年前に多くの豚が埋却された土地に向かって手を合わせる鋤柄さん(左から2人目)ら。豊田市内で